

## 標準委員会 第35回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録

1. 日時 2017年5月29日（月） 13：30～14：50
2. 場所 5東洋海事ビル A+B 会議室
3. 出席者（敬称略）
  - （出席委員）萩原（部会長），堺（幹事），石川，伊藤，北島，佐田，三本木，宿谷，松本，宮坂，吉田（11名）
  - （代理委員）平尾好弘（海上技術安全研究所）（1名）
  - （欠席委員）岡本，越塚，佐々木，田中，日比，山口（6名）
  - （説明者）【風洞実験実施基準分科会】伊藤幹事，【基盤応用・廃炉技術専門部会】萩原部会長（2名）
  - （事務局）中越，谷井（2名）
4. 配付資料
  - ATC35-0 議事次第
  - ATC35-1 前回議事録（案）
  - ATC35-2 人事について
  - ATC35-3-1 “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”改定案の基盤応用・廃炉技術専門部会決議投票結果について
  - ATC35-3-2 “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”改定案の基盤応用・廃炉技術専門部会決議投票で受付けた意見への対応表
  - ATC35-3-3 “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”（改定案）
  - ATC35-4 用語集WGについて
  - ATC35-5 部会・分科会・作業会の新任委員への説明・確認項目について
  - ATC35-6 分科会の活動状況について
  - ATC35-7 「第4回 日本電気協会原子力規格委員会シンポジウム」のご案内について

### 参考資料

- ATC35-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿
- ATC35-参考2 標準委員会の活動状況

### 5. 議事内容

事務局から開始時点で委員18名中，12名の出席があり，委員会成立に必要な委員数（12名以上）を満足している旨，報告された。

#### (1) 前回議事録（案）の確認（ATC35-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

#### (2) 人事について（ATC35-2）

事務局からATC35-2に基づき，専門部会及び分科会の人事についてそれぞれ下記の提案があり，常時参加者登録解除等が確認され，審議の結果，委員の選任が決議された。

##### 1) 専門部会

- ① 委員退任の確認

西田 浩二（日立GEニュークリア・エナジー）  
伊藤 肇（関西電力）

② 委員の選任決議

木藤 和明（日立GEニュークリア・エナジー）  
伊阪 啓（関西電力）

③ 委員の再任決議

佐々木 学（日本原子力発電）

② 常時参加者登録解除の確認

工藤義朗（原子力規制庁）

2) 分科会

① 副主査退任の確認

【シミュレーションの信頼性分科会】

越塚 誠一（東京大学）

(3) 【報告・審議】” 発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準” 改定案の基盤応用・廃炉技術専門部会決議投票結果及びその対応について (ATC35-3-1, ATC35-3-2, ATC35-3-3)

事務局から ATC35-3-1 に基づいて、” 発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準” 改定案は基盤応用・廃炉技術専門部会決議投票で可決されたことが報告された。引き続き、風洞実験実施基準分科会の伊藤幹事から ATC35-3-2, ATC35-3-3 に基づいて、当該決議投票で受けた意見への対応案が報告された。審議の結果、当該対応案は編集上の修正であり、当該対応案を反映した標準案を標準委員会で報告することが決議された。

質疑等は以下のとおり。

・コメント No.34 で、本文で“など”が11か所あることについて、多いという印象。減らすことはできないのか。

→例えば4ページの“～建屋，地形などを幾何学的に相似にさせて，風洞内に再現することで満足される。～”については，排気筒が“など”に含まれており，他の箇所と同様に例示のため“など”を入れています。また，風洞実験に係る模型等については，技術の進展，安全審査の状況等で変わりえると考えられるため，“など”を削除することにより，今後の技術的な知見の進歩にともなう実験条件の拡大に制限をかけることになるかもしれず，現状の記載の方が最適であると考えられる。

・括弧のフォントが左右で異なっているので適正化すること【17ページ図 A.1, 42ページ表 F.1&表 F.2, 93ページ解説図 13, 69ページ参考文献(6) & (8), 41ページ参考文献(4), 15ページ2), 3ページ3行目(参考), 91ページa)とb)】

・41ページ参考文献(4)について Atmospheric の前にスペースが必要。

・「気象指針」の表記について，JISでは「」は用いないので，“ ”としたほうがよい。

(4) 【報告】用語集WGについて (ATC35-4)

萩原部会長から ATC35-3-4 に基づいて，用語集WGが組織されることになったことが報告された。

(5) 【提案】部会・分科会・作業会の新任委員への説明・確認項目について (ATC35-5)

萩原部会長から ATC35-3-5 に基づいて，部会・分科会・作業会の新任委員への説明・確認項目が報告された。

事務局から実務マニュアル関連図書として記載されている“標準作成の手引き”に替わり“

標準作成ガイドライン“が既に学会HPに掲載されていること及び”標準委員会用語辞典 標準で使用される用語の定義”は発行前チェックが終わり次第学会HPに掲載される予定であることが報告された。

(6) その他

- ・次回第36回基盤応用・廃炉技術専門部会は、8月29日（火）13:30から開催することになった。

以上